

心理学部 父母会会報



D O S H I S H A
U N I V E R S I T Y
Faculty of Psychology

No. 07

December.2012





新島裏の書齋



新島旧邸外観



愛用のオルガン

人生百事意のごとくならず
成業ひとえに忍と勉とに因る

— 新島裏の手紙199頁



■ ご挨拶	4
■ 父母会イベント	6
■ ファーストイヤーセミナー ポスター製作発表会	7
■ 学生レポート 「ゼミ探訪」	8
■ 就職情報1 「4年次生 就職アンケート」	10
■ 就職情報2 「2011年度文学部心理学科卒業生の進路」	12
■ 学生生活Q&A	13
■ 留学について 「留学体験アンケート」	14
■ 同志社心理の歴史	16
■ わたしの学生生活	18
■ ご父母より	20
■ 教員メッセージ	21
■ 新島襄クイズ	22
■ 学部インフォメーション	23

「危機の重要性」

初冬の風に身も引き締まる季節となりました。日頃は父母会の活動にご理解とご支援を頂きまして感謝申し上げます。

クローバー祭も終わり、クリスマスツリーの下を学生たちが語らいながら通り過ぎていきます。どの学生にとっても、それぞれの人生の中でとても大切な時を今ここで過ごしているのだと思うと、心からエールを送りたくなります。

10月に開催されました名古屋地方懇談会で内山伊知郎教授から青年期はあえてリスクをとることの多い不安定な時期ではあるが自我同一性が達成されるためには心理的社会的危機に直面して悩む事が重要であるというお話をお伺いしました。

子供たちがしっかりと自分らしい生き方を見つけることが出来るよう僅かですがサポートを務めさせていただきたいと考えております。どうか今後とも個別面談・交流会・講演会などの父母会諸行事に参加くださいますとともにご意見をお聞かせ頂きますようお願いいたします。



父母会副会長 有井 潤子



「ゆとり」

昨夏、縁あって祇園祭の長刀鉾に稚児の祖父役として、一連の行事に関わらせていただきました。私の人生の中でも、最も面白い経験の一つでした。その中で、興味深い話を聞かせていただきました。長刀鉾の鉾は、鉾の真ん中を貫く長い柱の上に取り付けられており、柱は縄で鉾に固定されています。鉾と柱の間には拳が一個入るくらいの遊びがあります。昔、この縄をきつく締めつけ、遊びを無くしたところ、鉾を動かした途端に柱が折れてしまったということでした。動的安定性という言葉をお聞きになったことはないでしょうか。高層ビルなどは、地震の時にあえて揺れるように作られ、揺れることで(遊びを持たせることで)ビル本体が壊れるのを防いでいるのです。話は変わりますが、学校内で不登校やいじめなどほとんど問題が生じていない小学校がありました。職員室の片隅には、先生たちがそこで昼食をとったり、雑談したりする机が置かれていました。そこに赴任してきた新しい校長は、その机は、仕事の邪魔になるものとして、撤去してしまいました。それから半年、学校内で様々な問題が発生し出しました。その机を取り巻いて、先生たちは、子どもたちの様子や授業の教え方など、色々な話がされていたのでした。雑談の中から担任や他の先生たちは、問題を持っていそうな子供の情報を共有し、先生たち皆がその子に気を配り、またA君には、こんな素晴らしい点があるという話を聞き、担任はちょっと苦手だったA君を見直すきっかけになるというような機能をその机は果たしていたのでした。校長先生は自分の非を認め、机を元に戻し、やがて学校はまた落ち着いたものになったそうです。上の二例は、本当の意味での“遊び”あるいは“ゆとり”を表しているのだと思います。



本来日本人は、曖昧さを大事にしてきた民族であったと思います。ところが近年アメリカナイズするのが素晴らしいことのように錯覚してしまった日本人は、その曖昧さを認めないようになってきてしまいました。最近、世間は効率化という名のもとに、大事にすべきものまで切り捨てています。校祖新島の「同志社は発展するにしたがって機械的にことを処理する懸念がある。心からこれを戒めること」という言葉が現実味を帯びています。ゆとりと言えばゆとり教育を思い出す人も多いと思います。ゆとり教育の理念は決して間違いではなかったと思いますが、やり方は間違っていました。小数計算を理解させるのが難しいから、円周率は約3でいいというのはゆとり教育ではなく、手抜き教育です。先生方が「ゆとり教育って何？」という疑問をようやく払拭し始め、効果が出始めたところで、文科省はゆとり教育を取りやめてしまいました。また、問題山積でゆとり教育を考えざるを得なかった詰め込み教育に戻るのでしょうか。そもそも10年ごとに国の骨格をなす教育の大方針を変えてしまう日本。国の将来に暗澹たるものを感じるのは私だけでしょうか。

心理学部長 鈴木 直人

■ 父母会イベント

2012年度同志社キャンパスフェスタ

今年も、全国7ヶ所(宇都宮・北九州・名古屋・青森・高松・秋葉原・米子)で「同志社大学キャンパスフェスタ」を開催しました。内容は、八田学長による大学紹介・講演会・キャリア支援など多彩なプログラムで、校友の皆様・在校生のご父母・受験生と交流を行いました。心理学部父母会でも地方懇談会を開催して、教員の講演や個別面談などを実施しました。京都に向きにくいご父母も教員と交流できる地方行事にぜひともご参加お待ちしております。



心理学部講演会・父母会京都地方懇談会(交流会)

2012年11月3日(土)文化の日、京田辺キャンパス知真館において「心理学部講演会・父母会京都地方懇談会(交流会)」を開催しました。今年の講演会は、心理学部 中谷内一也教授による「安全と安心の心理学」をテーマに寄付という身近な物を題材に、人の思考を左右する二重過程やリスクはどのように評価され、安全基準はどのように設定されるかユーモアを交えたトークで社会心理学の一部を紹介していただきました。懇談会(交流会)では、総勢41名の父母・役員・教職員が参加のもと、留学・就職・大学院入試など気になる話題を教員に情報提供いただきながら、父母皆様で意見交換しました。



当日、京田辺キャンパスでは学生と市民が共にふれあい、交流できる場を目指した「同志社クローバー祭」が開催され、心理学部生も心理学体験コーナーを実施して、逆転メガネや錯視絵など心理学の楽しさを一般の方々に広める活動を行っていました。



■ ファーストイヤーセミナー ポスター製作発表会

毎年、1年次生の必修科目「ファーストイヤーセミナー」では、グループ毎に題材を決め、調査し、ポスターにまとめて発表する課題があります。今年の優勝チームをご紹介します。

テーマ

野菜ジュースは野菜と同じ 栄養効果があるのか



【要旨】

私たちは、野菜不足を気にする現代人の多くが、野菜ジュースを野菜の代用品として飲んでいることに注目しました。それでははたして野菜ジュースを飲むことで本当に野菜不足を補えているのでしょうか。

様々なデータから、それは不可能で、あくまで野菜ジュースは食品ではなくサプリメントのように補助的なものとして捉えるべきだという結論に至りました。生の野菜と野菜ジュースでは摂ることのできる栄養成分もバランスも異なるからです。野菜ジュースだけでは必要な栄養は補えません。しかしながら、生野菜は調理するのに手間がかかったり、かさが大きいので一日に必要な350gを摂取するのは大変だったりします。その点野菜ジュースは手間をかけることなく気軽に飲むことができます。このように野菜ジュースにもメリットデメリットがあります。そのことを把握し、野菜ジュースはあくまでも補助食品として考え、うまく生活に取り入れてほしいと思います。

ポスター製作活動を終えて



心理学部心理学科1年次生

阿智北 梨菜さん、有田 あいさん
藤本 裕衣さん、北出 安祐美さん
近藤 陽介さん

私たちは今回、ポスター演習発表で1位になることができましたが、中間発表などでは先生にたくさんの指摘を受けていました。私たちはまず、テーマが決まらず、なかなか根拠を探すまでに至りませんでした。テーマが決まっても、野菜ジュースと野菜の栄養素を調べて比較しただけの中間発表では、事実を述べているだけの「調べ学習」であると指摘されました。

そこで私たちは、改めてテーマについて考え直し、科学的根拠を探しました。なぜ野菜ジュースが売れているのかなど、栄養素の話以外の小さなテーマを見つけていき、「調べ学習」にならないように努めました。このポスター演習の後半では、班の全員が科学的にテーマについて考え始めることができていたと思います。

今回のポスター演習でテーマについて答えを出すとき、いかにみんなを納得させられるか、反論されても応えられるか、そのために科学的根拠がどれだけ重要であるかを学ぶことができたと思います。

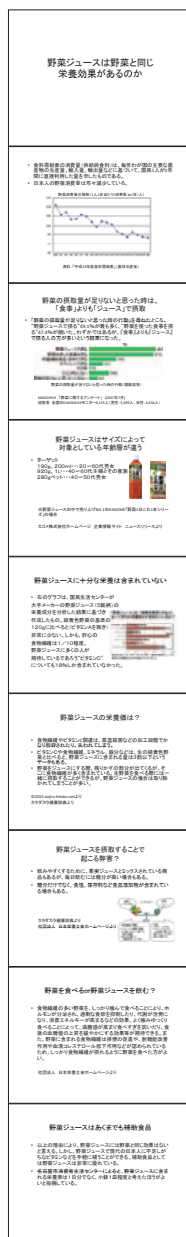


Teacher's
Voice

心理学部心理学科
畑 敏道 准教授

【クラス担当より】

研究は、「○○について」という曖昧な問題意識（とも呼べないもの）からではなく、「○○は△△か?」という具体的な問いから出発します。今回の優勝チームは、中間発表での反省をうまく生かして「○○は△△か?」式の問いを立て、それに答えるための適切なデータを収集し、合理的に結論を導き出したことが評価につながったものと思います。おめでとうございました。





竹原 卓真ゼミ(専門:認知心理学・感情心理学・顔学)



自由に、楽しく

心理学部心理学科 4年次生

蓮子 美沙希さん

竹原ゼミでは先生の専門である認知心理学についての研究に取り組んでいます。認知心理学とは何か。そんなことは竹原ゼミでは重要ではありません。ただ自由に楽しく科学的な研究が出来る、それが竹原ゼミです。

私はゼミを選ぶ際、自分がどのような研究をしたいのかが決まっていませんでした。そんな中で「日常の疑問から研究を始める」という竹原先生のスタイルは研究テーマに無限の可能性を秘めていると感じ、竹原ゼミを選びました。

竹原ゼミの約束事は2つ。テーマが決まるまで論文を読んではならない、ゼミで必ず一回は発言をする、これだけです。この約束事には、過去の研究にとらわれずに学生が持つ自由な発想で研究テーマを決めるように、そして、全員が発言することで多角的に物事を見られるように、という竹原先生らしい学生に対する愛情が込められています。3年次生のプレゼミではとにかくみんなで討論をします。討論では楽しかったことや疑問に感じたことを発表し合います。意見を出し合うことで、一人一人の考え方を知ることが出来ると共に、ジャンルに捉われない話題の中で研究テーマ発見の手掛かりとなるのです。

4年次生になると竹原ゼミ最大のイベント、北海道旅行が開催されます。この旅行は、とにかく楽しむことが

目的で、めいっぱい北海道を満喫し、先生、学生の壁を取り払って全力で楽しみます。そして旅行が終わるころにはいつしか絆が芽生え、ゼミ生同士の結束力が強くなります。私自身、このゼミ旅行は最高に楽しかった思い出として今でも色鮮やかに胸に残っています。北海道旅行が終わると、残すは卒業研究のみです。卒業研究は討論を通してテーマを決定し、2～3名のグループで共同研究を行います。

現在私が取り組んでいるのは自己顔と他人顔における不気味の谷研究です。最新鋭の3Dカメラとソフトを使い3D写真を撮影します。そして、自己と他人の顔を合成させ、出来上がった人工の顔に人はどのような印象をもつのかという実験を行っています。実際、この卒業研究のテーマもゼミの討論から生まれました。皆で意見を出し合うことで自分一人では思いつくことがなかったであろう、最高の研究テーマに出会え、私は満足のいく研究に取り組んでいる、と実感しています。ゼミ生活の中で築いた先生との信頼関係のおかげで、どのような事でも言い合うことができ、それが研究に深みを出してくれます。そして何よりも素晴らしい環境の中で、最高の仲間と共に自由に楽しく研究ができること、このことが竹原ゼミの一番の魅力だと思います。



Teacher's Voice

心理学部心理学科

竹原卓真 准教授

笑顔で楽しみましょう

私のゼミでの決まりは、研究テーマが決まるまでは論文を読ませない、ゼミ内では必ず意見を述べる、この2つです。研究は難解なイメージがありますが、本来は楽しむべきものだと考え、自由な発想を求めています。その効果があったのか、学生たちのポテンシャルが高かったのか、みんな個性的で面白い研究テーマにたどり着いています。苦しむのではなく笑顔で卒論を完成させ、社会に出て笑顔忘れず頑張ってほしいと願っています。



上北 朋子ゼミ (専門:生理心理学・神経心理学)



ねずみとともに

心理学部心理学科 4年次生
奥村 紗音美さん

上北ゼミでは、ラットやデグー（コミュニケーション能力のあるげっ歯類）を用いた卒業研究を行っています。テーマにはラットの脳機能やデグーの社会性の研究等、人間に対して応用できるものからその動物自体の性質を知るためのものまで幅があります。実験内容も、ある学生は朝早くから実験室へ引きこもりひたすらラットたちをT字型迷路の中で走らせたり、またある学生は大きな猛禽類の模型でデグーをビックリさせて、その反応を観察したりと様々です。実験室ですれ違った際には、実験の進捗状況やねずみたちへの愚痴が主な話題となります。

私たちは脳の前頭葉に位置する眼窩前頭皮質の機能について共同で研究しています。この部位が損傷されると衝動性が高まると言われています。私たちは手術により該当する部位を破壊した損傷群、手術は行わないものの損傷は与えない擬似損傷群、なにも手を加えない非損傷群の計3種類のラットの行動をT字型迷路を用いて比較しています。この迷路で、少し待っても沢山のエサを獲得できる「遅延有りの多い報酬」か、待

たなくてもよいが食べられるエサの量は少ない「遅延無し」の少ない報酬」かのどちらかを一方を選択させます。先行研究からは、通常のラットは「遅延有りの多い報酬」を獲得しようとしませんが、眼窩前頭皮質に損傷のあるラットは待つことが出来ず「遅延無し」の少ない報酬」を選んでしまうと予測されます。この仮説の下、現在も実験中です。

動物を扱う実験には、人間相手の実験とは異なる苦労があります。予想外の動きで驚かされることはしょっちゅうです。言葉が通じないので言って聞かせることもできません。人間側で装置や手順を調整するしかないのです。また接し方を間違えると噛まれます。痛いです。もちろん彼らを責めることはできません。しかしその分うまく動いてくれたときの喜びはひとしおです。彼らの能力に感心させられることも少なくありません。そして純粋にかわいいのです。そんな彼らと共に研究を行う上北ゼミは、少し変わり者で、しかし忍耐力や創意工夫にあふれ、何より動物への深い愛情を持った素敵な人たちの集まりです。



Teacher's Voice

心理学部心理学科
上北 朋子 助教

研究を楽しむ

自立心の強い個性的なメンバーが集まりました。各々の研究テーマにはその個性が反映されています。努力を惜しまない学生（さん、以下省略）は「ラットの忍耐の脳基盤を調べる研究」、人付き合いの上手な学生は「デグーの集団行動の意義を調べる研究」、静かに物事に熟中する学生は「騒音と記憶の研究」に取り組んでいます。基礎研究の中にユニークな発想を盛り込むことで、研究がとても楽しいものになります。そして、ゼミ生が自分の発想を大いに活かして研究を進めている姿は、私にとって何にも代えがたい励みとなっています。

■ 4 年次生 就職アンケート



深江 仁美さん

(心理学部心理学科 4年次生)



就職サポート企業による心理学部就職ガイダンス

①就職先・業種名:

食品、営業職

②事前準備で必要なことをお聞かせください。

私はたいしたことは一切していません。夏頃からインターンシップに通う友人は多くいましたが、夏はサクルの大会で忙しかったこともあり、一度も行けませんでした。事前準備という程たいしたことではないですが、自分はどんな人間か？を考える時間を大切に、私、こんな性格もあるなあ！と思いついた時にノートにメモしていました。あとは時間のある時に「四季報」「業界地図」を見て、どんな仕事があるのか調べることがしていました。

③就職活動を始めた時期はいつですか。また何から始めましたか。

私は10月頃、まず、就職サイトに登録することから始めました。しかし、本気で就職活動に取り組み始めたのは、多くの企業のエントリーが一斉に開始する12月1日です。

④会社訪問をした数はどのくらいですか。

説明会、選考あわせて約40社ぐらいです。

⑤面接は何回くらいありましたか。また、面接で印象に残っている質問やご自身で気をつけた点は？

グループディスカッション、グループ面接、個人面接あわせて30回ぐらいありました。面接で印象に残っている質問は、「あなたは友達からどんな人間だと思われると思いますか？」「一人暮らしで一番何が大切だと思いますか？」等。また、就職先の最終面接でされた質問ですが、「そんな大人しそうな見た目でも営業なんてできるの？」なんていう質問もありました。面接で気をつけたことは、一番はやはり身だしなみです。しかし、相手の目を見て話すということもとても大事にしていました。

⑥就職活動中、企業との連絡はどうしていましたか。(メール、携帯電話など)

メールとサイトは頻繁にチェックするようにしていました。また、いつ電話がかかってきてもすぐに着信履歴が分かるように、できるだけ電源は切らずにサイレントマナーモードにするようにしていました。

⑦就職活動中、授業は受けられましたか。(就職活動と授業のバランスの取り方)

週4日で授業を受けていましたが、就職活動のために単位取得に関わるほど授業を受けられないということはありませんでした。スケジュール管理さえしっかりできれば、なんの問題もないと思います。

⑧就職活動中、大学の支援はどうでしたか。

大学からはたくさんの支援をして頂きました。キャリアセンターの方にはエントリーシートのノウハウを優しく教えて頂きました。また何よりも豊富な種類の企業の説明会が学内で聞けること、本当に有難く感じていました。

⑨就職活動を終えてどうでしたか。

やっぱり自分に合っている会社は選考も進みますが、あってない会社は進みませんでした。いくら自分を偽ってよく見せようとしても、選考では見抜かれますし、逆に素のままの自分を評価してくれるところもたくさんあります。ですので、就職活動を通して一番思ったことは、自分に自信を持って自分の言葉で表現することが大事だということです。

⑩就職活動の際、ご家庭に助けられた点、またはこうして欲しかった点などお聞かせください。

まず、家族は自分のことをよく分かってくれているので、自分はどんな人だと思うか意見を聞いていました。あとは、沢山就職活動の話聞いてもらったことです。話を聞いてもらうだけで、明日も頑張ろうと思えました。

⑪後輩へメッセージ

就職活動はツライものと考えるのではなく、何よりも楽しんでください！結局は、楽しんで人ほど自分の希望の会社に入っていると思います。正直、自分に合わない会社がほとんどです。でも自分のやりたいことがあるなら、その業界、その仕事を納得いくまで調べて、とことん好きになって、突っ走ってください。きっと自分にぴったりなところがあります。無理をせず、自分のいいところも悪いところも素直に認めて、全部含めて好きだと思えるくらい自信をもってください。自分に自信をもって話すことのできる人は、やはり魅力があると思います。頑張ってください。応援しています。



足立 磨美さん

(心理学部心理学科 4年次生)

①就職先・業種名:

金融業

②事前準備で必要なことをお聞かせください。

私は事前準備をほとんどせず、大学内で行われる就職ガイダンスに参加したり、就職活動の流れを簡単に確認するくらいでした。そのため就職活動が始まったばかりの時期は非常に焦ることになりました。

③就職活動を始めた時期はいつですか。また何から始めましたか。

12月からです。合同説明会に行くことから始めました。

④会社訪問をした数はどのくらいですか。

30社程です。

⑤面接は何回くらいありましたか。また、面接で印象に残っている質問やご自身で気をつけた点は？

面接は1社につき3、4回ありました。(多い所で5、6回) エントリーシートですが「あなたは就職するということをも自分の人生の中でどのように位置付けていますか」という質問があり、考えさせられました。

面接の際には「自分の言葉で話す」ことを一番に心がけました。よく言われることですが、実際に面接を体験してとても難しいことだと痛感しました。そのためOB訪問や支店見学などを出来る限り行って、自分が実感したことを述べました。

⑥就職活動中、企業との連絡はどうしていましたか。(メール、携帯電話など)

最初の頃はほとんどメールでやり取りしていました。面接が始まってくると連絡はほぼ電話だったと思います。

⑦就職活動中、授業は受けられましたか。(就職活動と授業のバランスの取り方)

秋学期までは受けられました。私は地元就職であったため、4月ごろになり多くの企業で面接が始まるとゼミを欠席し、しばらくの間就職活動を優先させてもらっていました。

⑧就職活動中、大学の支援はどうでしたか。

キャリアセンターの方々には大変お世話になりました。私は何度も通ってエントリーシートを添削してもらったり、就職活動についてのアドバイスを沢山いただきました。エントリーシートや面接講座等も多く開催されているので利用すると良いと思います。また、2月ごろから大学で行われる企業説明会は、少人数で人事の方と距離も近く、企業について多くの情報を得ることが出来たので、可能な限り参加しました。

⑨就職活動を終えてどうでしたか。

終わってみたらあっという間だと感じましたが、就活中はとても辛かったです。今は就職活動を経験出来て良かったと思っています。

⑩就職活動の際、ご家庭に助けられた点、またはこうして欲しかった点などお聞かせください。

上手くいかず落ち込んでいた時にはいつも励ましてもらいました。話もよく聞いてもらい、とても助かりました。

⑪後輩へメッセージ

就活中は思い通りにいかないことも多いと思います。自分に余裕がなくなった時は、友人や家族など、周りの人にたくさん話を聞いてもらったりして、適度に息抜きをしてください。周りに流されず、自分のペースを貫いて頑張ってください。



4年次生(内定者)による就活体験説明会

2011年度文学部心理学科卒業生の進路(2012年4月実績)

■ 就職先／進学先一覧

男 女

進路名称	企業名／進学名	都道府県名／研究科名	人数	企業名／進学名	都道府県名／研究科名	人数
就職 (正規雇用)	株式会社ニトリ	北海道	1	NECモバイリング株式会社	東京都	1
	セコム株式会社	東京都	1	SMBC日興証券株式会社	東京都	1
	NECネットエスアイ株式会社	東京都	1	イオンクレジットサービス株式会社	東京都	1
	国家公務員1種 国税庁	東京都	1	サントリーパブリシティサービス株式会社	東京都	1
	セイノー通関株式会社	東京都	1	ソニー損害保険株式会社	東京都	1
	ブックオフコーポレーション株式会社	神奈川県	1	株式会社ゆうちょ銀行	東京都	2
	伊那市	長野県	1	株式会社ワークポート	東京都	1
	西村器械株式会社	京都府	1	株式会社紀伊國屋書店	東京都	1
	月桂冠株式会社	京都府	1	株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都	1
	同志社大学(職員)	京都府	1	株式会社大和証券グループ本社	東京都	1
	株式会社エヌ・ティ・ティマーケティングアクト	大阪府	1	株式会社電通テック	東京都	1
	株式会社サイバーリンクス	和歌山県	1	三井住友海上火災保険株式会社	東京都	1
	福山市	広島県	1	東京海上日動火災保険株式会社	東京都	1
				株式会社アイジーエー	福井県	1
				エクセレンス株式会社	京都府	1
				宇治市	京都府	1
				株式会社わかさ生活	京都府	1
				株式会社京進	京都府	1
				京都府警察(警察官・警察事務 等)	京都府	1
				村田機械株式会社	京都府	1
				KBセーレン株式会社	大阪府	1
				シャープ株式会社	大阪府	1
				ジャパンロードキャストソリューションズ株式会社	大阪府	1
				旭化成グループ	大阪府	1
				岡藤商事株式会社	大阪府	1
				岡本無線電機株式会社	大阪府	1
				株式会社セルビス	大阪府	1
				株式会社近畿大阪銀行	大阪府	1
				寺内株式会社	大阪府	1
				社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会千里病院	大阪府	1
				株式会社日本ビジネスデータプロセッシングセンター	兵庫県	1
				株式会社浜学園	兵庫県	1
				国立大学法人神戸大学	兵庫県	1
				株式会社京ろまん	奈良県	1
				奈良県教員	奈良県	1
				株式会社四国銀行	高知県	1
		計	13		計	37
進学	同志社大学大学院	心理学研究科	4	同志社大学大学院	心理学研究科	2
	一橋大学大学院	社会学研究科	1	京都文教大学大学院	臨床心理学研究科	1
	関西大学大学院	臨床心理専門職大学院	1	関西大学大学院	臨床心理専門職大学院	1
	神戸大学大学院	人文学研究科	1	京都医健専門学校	言語聴覚士学科	1
		計	7		計	5
		男計	20		女計	42

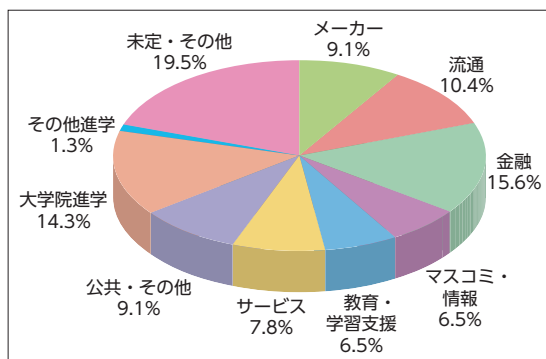
※表中の都道府県名は当該企業の本社所在地を示しています

※企業名が不明の場合は掲載しておりません

※企業名および進学名順不同

■ 人数内訳・業種別一覧

		男	女	合計	%
就職	メーカー	3	4	7	9.1%
	流通	2	6	8	10.4%
	金融	0	12	12	15.6%
	マスコミ・情報	2	3	5	6.5%
	教育・学習支援	1	4	5	6.5%
	サービス	1	5	6	7.8%
	公共・その他	4	3	7	9.1%
進学	大学院	7	4	11	14.3%
	その他	0	1	1	1.3%
未定・その他		6	9	15	19.5%
合計		26	51	77	100.0%



CAMPUS Q&A

学生生活におけるよくある質問にお答えします。

Q

同志社大学の留学制度について教えてください。

A

海外への留学制度は、大きく分けると2～4週間の短期プログラム、約4ヶ月の中期プログラム、半年～1年間の長期プログラムがあります。プログラムの内容についてより詳しく知りたい方は、国際センター国際課にてご相談ください。

また、同志社大学には約700名の留学生が学んでいます。全学共

通教養教育科目には、異文化および日本文化を理解できる「国際教養科目」が設置されており、英語により授業が行われるクラスや留学生と共に学ぶクラスが用意されています。授業を通して、留学生との交流を通して、留学の疑似体験も可能です。

その他、留学の受け入れ判定に用いられるTOEFLテスト対策講座なども課外講座として実施しています。

海外の留学制度（「外国留学の手引き2012」より一部抜粋）

	制度名 概要	期間	費用		単位認定	成績評価	在学期限	出願時必要な語学力 (TOEFL)
			同志社大学学費	留学先授業料				
履修科目による留学	サマープログラム・スプリングプログラム このプログラムは本学での事前授業と現地での研修によって構成されています。参加者は、留学前に日本で行われる事前授業を通じて留学先の国の言語・文化・社会への理解を深め、留学先での学習と生活を通して外国語能力を向上させるとともに、豊かな国際感覚を養います。留学期間はプログラムによって異なりますが、およそ2週間～4週間です。 留学先は、イギリス、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、ドイツ、フランス、中国、スペイン、メキシコ、ロシア、韓国と多岐に渡ります。本学が提供する留学プログラムのなかではもっとも留学期間が短く、また、出願時に一定以上の語学能力を示す書類を提供する必要がないプログラムです。	短期 春休みまたは夏休み期間中 2～4週間	全額納入	自己負担	外国語教育科目として単位認定	事前授業と留学成績を総合評価	加算できる	スコア等提出不要
	セメスタープログラム 英語圏にあるいずれも外国語教育に定評のある大学で、経験豊かな講師陣のもと、秋学期1セメスター（約4ヶ月）集中的に英語研修を受けるプログラムです。1ヶ月程度の留学では物足りないと思っている方、また同志社大学の派遣留学生制度等の長期での留学を目指しているなど、集中的に語学力をアップさせたいという方に最適です。言語文化教育研究センターと各研修校との協力のもとに開講され、留学出発前に実施される事前授業と留学先での集中的な英語研修によって構成されています。	中期 秋学期1セメスター (約4ヶ月)	全額納入	自己負担	外国語教育科目として単位認定	事前授業・留学成績・帰国後成果発表を総合評価	加算できる	ITP 450以上 または iBT 45以上
在学期間による留学	同志社大学外国協定大学派遣留学生制度 同志社大学は、30カ国（地域）129大学（2012年1月1日現在）と学生交換協定を締結しています。派遣留学制度はこれらの協定校に半年間または1年間留学するプログラムで、所属学部に関わらずほとんどの学生が出願することができます。派遣留学生は留学期間中も同志社大学に在学するため、留学期間が卒業に必要な修業年限に算入されます。また、派遣留学生は同志社大学からの推薦を受けて留学することになるため、国際課からのサポートを受けながら留学手続きを進めることができます。	半年間または1年間	全額納入	免除	内容によっては可能	内容によっては可能	加算できる	ITP 550以上 または iBT 80以上
	認定留学 自ら選択・出願し、入学が許可された大学への留学を所属学部にて在学期間として認定してもらうことを、所属学部教授会によって、申請した留学が教育上有益であると認められる必要があります。認定留学が認められた場合は留学先で取得した単位について単位認定を申請することができますが、留学先大学の授業料は自己負担になるため、政府や民間の奨学金を得て留学するケースもあります。	各年度で選択できる	全額納入	自己負担	内容によっては可能	内容によっては可能	加算できる	留学先による
	アームスト大学への留学生派遣制度 アームスト大学への留学生派遣制度には、二つの種類があります。 一つは、1870年にアームスト大学を卒業した同志社の創業者 新島襄を記念して、アームスト大学が1954年に設立したスカラーシップ（「新島スカラー」）です。もう一つは、1984年から始まったスカラーシップ（「同志社新島スカラー」）で、これは法人同志社が、同志社創立100周年記念事業寄付金の一部をもって設立した新島基金によって運営されています。「同志社新島スカラー」は、「新島スカラー」の募集の行われない年次毎（隔年）に募集されます。したがって同志社からは、事実上、毎年1名がアームスト大学に派遣されることになります。	2年間	全額納入	免除	内容によっては可能	内容によっては可能	加算できる	iBT 92以上
休学留学	同志社大学を休学して留学することです。休学期間には在学期間に算入されないため、留学期間を含めた4年間の卒業はできず、留学先で取得した単位の単位認定も申請できません。留学先大学の授業料は自己負担ですが、休学期間の本学への納入費用は「休学在籍料」のみです。自己負担の費用についても、私費で負担する以外に政府や民間の奨学金を得て留学する方法があります。大学のプログラムによらない留学のため、幅広い選択肢から留学先や留学期間を選ぶことができます。	各年度で選択できる	休学在籍料のみ	自己負担	不可	不可	加算しない	留学先による



Teacher's
Voice

心理学部 心理学科

田中 あゆみ 准教授

【教務（国際）主任より】

大学生活中に一度は留学を考えている人は多いようですが、なかなか実行に移せないのが現状のようです。安全性や授業単位との兼ね合いの面でおすすめなのが、今回紹介されている大学の派遣留学制度やプログラムです。一見ハードルが高そうですが、実は希望者がいなくて二次募集があったり、結局派遣者なしとなっている枠もあります。TOEFLなどのスコアは集中して勉強すれば必ず伸びますし、普段の授業をおろそかにせず、GPAを一定の水準に保つ努力をすれば、派遣留学生となるチャンスは誰にでもあります。私たちが競うべき、また刺激しあうべき存在は世界にいます。留学を通じて視野を広げ、大きな目標をもって社会に貢献できる人になって欲しいと思います。

■ 留学体験アンケート



🇫🇷 サマープログラム

木村 麻里さん
(心理学部心理学科 3年次生)

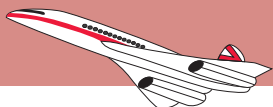
- ①留学先(大学名・国名) :
フランシュ=コンテ大学CLA・フランス
- ②留学を決意したきっかけ
2年次に履修していたフランス語の先生に勧められたため。
- ③留学先の決め方・選び方
自分が行きたくて、かつ将来につながるところが良いと思います。
- ④留学のため準備したこと・心がけたこと
ガイドブックを読んで現地の情報収集をする。身のまわりの物の単語は言えるようにしておくに便利です。
- ⑤留学中の過ごし方
平日は授業に出席した後、買い物に出かけたり、現地の友達と夕食を食べたりしました。土日はお店が閉まるので、友達とピクニックに出かけたり、美術館を巡ったりしていました。
- ⑥留学先での勉強
スピーキング、リスニング、リーディング、文法とまんべんなく学ぶことができました。文法は日本で習ったことをフランス語で学びなおす感じでしたが、全く知らない初めての文法もありました。
- ⑦勉強以外の思い出
授業や遠足、イベントなどで語学学校の他国籍の友達と仲良くなって、一緒にそれぞれの国の伝統料理を食べたり、パーティーに行ったりしたこと。休日に友達と遠くの街にTGV(フランスの新幹線)で出掛けたのも楽しかったです。あとはやっぱりパリでのお買い物ですね！
- ⑧留学中の滞在先
ブザンソンとパリ
- ⑨留学後の変化
フランス語が上達したのはもちろんですが、とても視野が広がった気がします。自分の悩みがちっぽけなものに感じられました。自立心も以前と比べて身につきました。1か月のみの短期留学でしたが、得たものは想像以上に大きかったと感じます。
- ⑩留学を目指す人へメッセージ
留学は、勇気はもちろんお金もたくさん必要ですし、行きたいと思ってあきらめる人が多いのではないのでしょうか。私も中学生の頃からずっとフランスに憧れ続け、しかし「タイミング」とかを言い訳にして今までずっと行けずじまいでした。でも今回、「行くなら、もう今しかない！」と思いきって行って本当に良かったです。生のフランスを身をもって体験することができ、フランスの食事、建物、人、言語、芸術、お土産、それらの文化が想像以上に素晴らしくて、とても感動しました。行く前より大好きです。また行きたいです！留学を考えていらっしゃる方は、是非大学生のうちにに行くのが良いと思います。金銭面や成績とかで行けないのは正直もったいないです。何とかなる方法を考えて行く価値はあると思います。そして、価値を見いだせる留学生活を自分自身で送る必要があります。それが正直、留学の一番大切なポイントではないでしょうか。楽しくするのも、つまらなくするのも自分自身。自分の行動に責任を持って、頑張ってください！！



🇺🇸 セメスタープログラム

村田 亜里沙さん
(心理学部心理学科 4年次生)

- ①留学先(大学名・国名) :
ハワイ大学・アメリカ合衆国
- ②留学を決意したきっかけ
複数の友人の留学体験談がそれぞれ異なるエピソードでどれも魅力的だったので、私ならどんな経験ができるのか自分で確かめたいと思ったからです。
- ③留学先の決め方・選び方
卒業を先延ばしにしないで済むよう、在学留学が可能なセメスタープログラムを利用しました。事前学習や事務手続きにおいて大学のフォローがあったので、初めての留学でも不安はありませんでした。
ハワイを選んだ理由は、世界中から人が集まる多文化な地域であるからです。実際に欧州や北南米、アジアなど各地の友人に恵まれました。また気候が良く体調管理がしやすい点も魅力でした。
- ④留学のため準備したこと・心がけたこと
留学経験のある友人に学校の様子や生活で困ったことを訊ね、参考にしながら荷物を準備しました。また渡航前にホストファミリーと少しでも打ち解けるために、趣味や日常生活についてメールで交流し距離を縮めました。
- ⑤留学中の過ごし方
平日は15時頃まで授業を受け、休日にはハイキングやスポーツ観戦などのアクティビティに参加しました。友人だけでなく歳の近い先生とも親しくなり、食事や買い物に出かけました。連休を使ってルームメイトとカウアイ島へ旅行したことは貴重な思い出です。
- ⑥留学先での勉強
宿題が多い日は夜遅くまでかかることもありましたが、課題よりも家族や仲間と過ごす時間が実際に聞く力や話す力を鍛えていたと思います。最初は戸惑うことも多かったですが、分かったふりをせずきちんと向き合うことで時間と共に成長したと感じました。日常の会話が一番の勉強だったと振り返ります。
- ⑦勉強以外の思い出
スカイダイビング・スキューバダイビング・ハロウィン・ホノルルマラソンなど初めてのイベントをたくさん経験出来ました。たとえ特別な日でなくても、朝起きてから眠るまでの1日の生活の中にはいくつも新しい出会いや発見があり、新鮮で刺激的な毎日でした。
- ⑧留学中の滞在先
大学からバスで30分程の老夫婦の家庭にお世話になり、同期間滞在していたスイス人のルームメイトとも意気投合しました。私たち留学生は夫婦から家族のように温かく接して頂いたおかげで、笑いの絶えない毎日でした。1日の中で最も好きだった夕食後の団楽の時間を懐かしく思います。
- ⑨留学後の変化
英語が不得意であることが気がかりだった当初は何も吸収できませんでした。下手でも不得意でも自分なりに動いてみたとき、初めて新しい感覚を掴んだ気がしました。間違えることで少しずつ成長していける実感ではからは、失敗を恐るチャレンジできるようになりました。帰国してからの就職活動や教育実習の場面でも、その考え方に救われたと思います。
- ⑩留学を目指す人へメッセージ
もしあの4ヶ月間が無ければ、まったくの別世界で暮らしていた年齢や国籍の異なる人々と私が出会うことはありませんでした。一歩踏み出したことで得られたみんなとの出会いや繋がりは一生の宝物です。留学に興味があるなら、是非自分の目で確かめに行くことをオススメします。きっと世界中にはあなたにしか掴めない出会いやチャンスが待っているはずですよ。



 外国協定大学
派遣留学

北島 里紗さん (心理学部心理学科 4年次生)

①留学先(大学名・国名)：

ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ(フランクフルト)大学・ドイツ

②留学を決意したきっかけ

大学1年次にドイツ語インテンシヴクラスを履修し、ドイツ語学習そのものに興味が湧いたことがきっかけでした。もっと自分のドイツ語能力を伸ばしたいと思うと同時に、ドイツで育まれた文化・宗教そして学問を実際に体感したいと思うようになり、2年次の10月ごろにあった派遣留学の募集に申しました。

③留学先の決め方・選び方

まずは留学先大学を決めるよりも、ドイツに留学したいという思いが強かったため、特に希望を固めず申しました。ドイツの派遣留学協定大学は全部で5校ありますが、最初に選考結果が開示された時点では留学は叶わず、「ああ、駄目だったのだな」という諦めも半ば感じていました。しかしその後、2011年度から新しく派遣留学協定が結ばれたフランクフルト大学へ留学する機会を与えていただきました。今振り返ってみれば、フランクフルトに留学して良かったと感じることが多いですが、正直に言うところ決まった時は「留学できればそれで良い」という心情だったのを覚えています。というのも、ドイツのどの街もそれぞれ個性があり、協定校は歴史ある大学ばかりですし、どこを選んででも有意義な留学生活が送れたことでしょう。

④留学のため準備したこと・心がけたこと

留学が決まる前の段階でも、決まった後も、自分の語学力を高めるためにドイツ語学習に集中していました。初めてドイツで生活するわけですから、文法はいくら理解できても当然「話す・聴く」という点において、不安しかありません。毎日語彙を増やすため単語カードを作ったり、ドイツ語のニュースや映画を見たり聴いたりして、毎日の学習を欠かさずに行っていました。しかし、派遣留学は同志社大学の代表として、協定校で自分の専攻を勉強するためのものです。勿論、専攻科目の成績も考慮に入れなければいけません。留学のために、1年卒業を遅らせる必要が無いよう可能な限り多く授業を受講し、また3年次に履修すべき必修科目を4年次に履修できるかということも確認し(特に実習などを必要とする教職課程関連)、4年で卒業できるように準備をしていました。

⑤留学中の過ごし方

「留学は後半が勝負」とよく言われますが、確かに前半と後半では生活がかなり変化したように思います。最初の半年は、まずはドイツの生活に慣れることと知人を増やすこと、そして語学力を向上させることを主な目的として、大学での講義はドイツ語の語学授業と日本語授業のアシスタントを中心に、そして空いている時間は語学学校に通っていました。時間的にはゆとりのある生活を送っていたと思います。その分、普段の生活でも言葉の面で不便を感じたり、知人が0の状態では銀行関連のことや、ビザ関連の複雑な手続きを全て独りでこなさなければいけなかったり、最初の半年はとにかく「大変だった」という印象があります。夏休み期間に入ると、ボランティア体験をしたり国内を旅行したりしてドイツの夏を満喫しました。冬学期には、聴講生としてではありましたが大学での講義も増やし、日本料理レストランでアルバイトを始めたが、忙しいながらも友人との交流を深めたり、とても充実した生活を送っていたように思います。

⑥留学先の勉強

今思うと、もっと早い時点から積極的に心理学の講義やゼミに参加していれば良かったと感じますが、最初は普通の会話をするだけでも精一杯で、到底授業など理解できるものではないと考えていました。前述の通り、半年間は地域の語学学校や夜間の少人数プライベート・スクールに通って、まずドイツ語に「慣らす」ことを目指していました。その甲斐もあって、半年間で語学力はかなり伸長したように感じました。そこで、帰国直前にドイツ語能力試験(TestDaF)を受験することに決め、無事に目標を達成して帰国することができました。しかし、いつも私の念頭にあったのは「語学は手段であって、目的で

はない」ということでした。とりわけコミュニケーションする場合においては「分かれば、良い」ということです。最初から「自分にはレベルが高すぎるのではないかと」怖気づくよりも、どんな授業でも参加することで(内容は理解できなくとも)授業の雰囲気や日本とは異なることに気づき、新しい発見ができました。さらに、留学生には英語という武器もあります。大きい講義の殆どは英語で開講されている学部もありました。その点においては、ドイツ留学でありながらも英語のスキルを向上させることもできます。

ドイツの学生も、他国の学生のように「オン/オフ」の切り替えがとて上手いです。自分の専攻に対しての興味・関心が深く、「もっと知りたい・学びたい」という姿勢が普通の授業からもうかがえた一方、ゆっくりできる時間はキャンパスで日光浴したりメイン川を散歩したり、金曜日の夜には羽目を外したり……。そういった切り替えが「学び」のスタイルとして必要なのではないかと思います。

⑦勉強以外の思い出

前述のように夏・冬の休暇中は、ドイツ国内を中心にたくさん旅行をしました。ドイツ国内といっても街によって文化や「空気」が全く違うことに驚きました。フランクフルトはヨーロッパの交通の要所として、ヨーロッパ圏内へのアクセスが便利な都市だったので、国外にも比較的容易に旅行ができました。また、夏休みに参加した農業ボランティアでは、ドイツの田舎の生活、伝統的なドイツの文化や習慣を体感できました。

⑧留学中の滞在先

1年間、大学の寮に滞在していました。大学から地下鉄で約10分のところにある、700人ほどが滞在できるかなり大きな寮です。入寮者の約6割がドイツ人学生、4割が留学生という所でしたが、寮によってその割合は異なります。一人部屋ではありましたが、バス・トイレ・キッチンが共同という所でした。

⑨留学後の変化

自分自身の変化というもの自分では一番理解しにくいとは思いますが、強いて挙げると「対外的な『日本人』視点」を獲得したことだと思います。言い換えると、「日本人として自分がどう見られているか」を強く意識するようになりました。滞在中に、日本人ステレオタイプによる誤解にしばしば遭遇することもありましたし、やはり「ツアリスト」としてではなく「市民」として生活するということは、より「日本人である自分」というものを実感させるものでした。また、そう言ったステレオタイプや先入観(「日本人は○○だ」「ドイツ人は××だ」という言説)は、時と場合により「戦術的に」対応すべきだということも学びました。また、授業中や友人との会話の中でも、自分の意見を求められる場面というものには頻りに遭遇しました(ドイツに限らないと思いますが)。そういった場面では逆に「日本人としてではなく、一個人としての意見」というものを発言するように心がけるようになりました。そういった議論のスタイルを多く経験することで、自分がどういった人間でどういう思考をしているか、というものを対目的視点で考えることができました。

⑩留学を目指す人へメッセージ

大学時代の貴重な1年間を海外で過ごすということは、机上の勉強だけでは到底得られない楽しさや驚き、落胆、喜び……本当にいろいろなものをもたらしてくれます。そして、努力次第では「自分の本当の武器」を獲得できる機会であると思います。少しでも迷いがあるのならば、まず「海外に行く!」と宣言してしましましょう。「行きたい」と言っているだけでは何も変わらないのです。拙劣な文章ではありますが、皆様が有意義な大学生活、そして留学生活を送れることを心から祈っております。最後にドイツ語でお別れを…… Ich wünsche Ihnen viel Erfolg in Ihren weiteren Studien. Auf Wiedersehen!



		文学部文化学科心理学専攻・ 文学部心理学科・心理学部の歴史	心理学部に関する建物	同志社の歴史	社会情勢
1875	明治8年	同志社英学校開校科目に「性理学」		同志社英学校開校	
～		本学における心理学の研究・教育の起源は、同志社大学の前身である官許同志社英学校まで遡ります。新島襄が1875年に京都府庁に提出した「私塾開業願書」に開講科目の一つとして「性理学（心理学）」が記されています。日本の現代心理学の礎を築いたとされる東京帝国大学の初代教授となった元良勇次郎と、京都帝国大学の初代教授となった松本亦太郎は、ともに同志社英学校草創期の学生でした。			
1927	昭和2年	文学部哲学科 心理学専攻設置認可	旧徳照館（現神学館）に研究室設置（～1944） 致遠館と神学館の間の建物（33・3m）に実験室（～1931）		昭和金融恐慌、山東出兵
1931	昭和6年		啓明館1階（51・2m）に実験室（～1951）		満州事変勃発
1932	昭和7年				五・一五事件
1936	昭和11年				二・二六事件
1937	昭和12年	関西心理学会第21回大会 大会委員長：本宮弥兵衛			日華事変勃発→日中戦争に拡大
1938	昭和13年				国家総動員法公布
1939	昭和14年				第二次世界大戦
1940	昭和15年				日独伊三国同盟
1941	昭和16年	文学部文化学科心理学専攻 設置認可		文学部の学生改組で神学科・文化学科の2学科に改組	大東亜戦争、大政翼賛会
1943	昭和18年	関西心理学会第44回大会 大会委員長：遠藤汪吉			学徒出陣令公布
1944	昭和19年	文学部文化学科心理学専攻の 消滅	アーモスト館3Fに研究室設置（～1946）	戦争の激化により法学部単一学科に	学徒動員令公布
1945	昭和20年				広島・長崎に原爆投下、ポツダム宣言受諾
1946	昭和21年		致遠館に研究室設置（～1947）	元の2学科に復旧（厚生学科は文学部社会科学になる）	農地改革、日本国憲法公布
1947	昭和22年		有終館2階南側に研究室設置（～1951）		
1948	昭和23年	文学部文化学科教育学及び 心理学専攻として再設置		新制大学開校 神・文・法・経済学部4学科編成に	
1949	昭和24年			商学部と工学部が新設され6学部編成に	湯川秀樹 ノーベル賞を受賞
1950	昭和25年			新制大学 大学院修士課程（神・文・法・経済・商）設置 夜間2年制の短期大学部（英語・商・経・工各学科）設置	朝鮮戦争
1951	昭和26年	動物飼育室と臨床心理室を設置	北寮1Fに研究室（～1956）・ 実験室（92・4m）（～1956）設置	大学教養学部（一般教育課程）を廃し学部別縦割りに	サンフランシスコ講和条約
1953	昭和28年			大学院博士課程（神学研究科・文学研究科・法学研究科・経済学研究科）設置	
1954	昭和29年			短期大学部解消 4年制大学（文・法・経済・商・工各学部）設置	
1955	昭和30年	心理学同窓会発足		工学研究科修士課程設置	
1956	昭和31年		寧静館5階に研究室移動（～1986） 同工館1階（現博達館）に実験室（219m）移転（～1961）		
1958	昭和33年	関西心理学会第64回大会 大会委員長：遠藤汪吉		アメリカ研究所設置	
1959	昭和34年	アメリカからモノローの電動式計算機を導入		理工学研究所設置	
1960	昭和35年			同志社社史史料編集所設置	第一次安保闘争
1961	昭和36年	大学院文学研究科修士課程心理学専攻設置認可 特殊実験室（脳波などの生理機器）を設置	学生会館（現至誠館）に実験室（206m）移転（～1968） 啓明館5階実験室（158・9m）を増設（～1986）		
1963	昭和38年			同志社大学初のコンピューク導入	
1964	昭和39年	大学院文学研究科博士課程心理学専攻設置認可			東京オリンピック、東海道新幹線開通
1967	昭和42年	文化学科教育学及び心理学専攻を分離、心理学専攻となる			
1968	昭和43年	日本心理学会第32回大会（7月22日～24日） 大会委員長：遠藤汪吉	寧静館1階・地下1階に実験室（385・6m）移転（～1986）	旧学生会館取り壊し	ベトナム戦争反戦運動
1969	昭和44年		寧静館3階に実験室（28m）増設（～1986）	寧静館学生により封鎖	第二次安保闘争、大学紛争激化
1970	昭和45年				日本万国博覧会（大阪万博）
1971	昭和46年	第2回日本広告学会（12月10～11日）大会委員長：小島外弘			
1972	昭和47年				札幌オリンピック、沖縄県復帰
1973	昭和48年	松山義則同志社大学長に就任（～1983）			第一次石油ショック
1975	昭和50年			計算機センター開設	沖縄海洋博覧会
1976	昭和51年				ロッキード事件
1977	昭和52年	同志社大学心理学研究室に関西心理学会事務局が置かれる			
1979	昭和54年	第6回パーソナリティ・アセスメント国際会議（7月12～17日） 大会委員長：松山義則			第二次石油ショック
1981	昭和56年	実験室にコンピューク導入			
1984	昭和59年	私立大学等研究設備整備費等補助金（エモーションアナライザーシステム整備）		今出川に徳照館建設	
1985	昭和60年	私立大学等研究設備整備費等補助金（皮膚温度情報解析システム）整備 松山義則学校法人同志社総長に就任（～2001） 松山義則学校法人同志社理事長に就任（～1990）			筑波万博

2009年4月、同志社大学12番目の学部として心理学部は開設されました。

同志社大学と心理学との関わりは古く、1927年より本格的な実験心理学の研究・教育が始まりました。長年の伝統と精神はそのままに、次代を見据え、基礎研究力と応用力を兼ね備えるバランスのとれた人材育成を目指しています。

同志社心理の歩みー

	文学部文化学科心理学専攻・ 文学部心理学科・心理学部の歴史	心理学部に関する建物	同志社の歴史	社会情勢
1986 昭和61年		徳照館4、5階に研究室移動(～2009 12) 自然系等実験実習棟心理学実験室(422m)設置 (～現在に至る) 徳照館地下1階に実験室(791m)移転統合 (～2012)	京田辺校地開校	バブル景気始まる
1987 昭和62年	関西心理学会第99回大会 学会創立60周年記念大会(11月7日) 大会委員長:松山義則 私立大学等研究設備整備費等補助金 (情報表出画像解析システム導入)			国鉄民営化
1988 昭和63年				リクルート事件
1989 平成1年				消費税施行(3%)
1990 平成2年				国際花と緑の博覧会 (大阪)
1991 平成3年			アメリカ研究科修士課程開設 学術情報セ ンター発足	バブル経済崩壊 就職氷河期始まる
1992 平成4年	第10回日本生理心理学会(5月21～22日) 大会委員長:松山義則 日本心理学会第56回大会(9月9～11日) 大会委員長:松山義則			
1993 平成5年	第1回日本感情心理学会大会(4月24～25日) 大会委員長:松山義則 松山義則社団法人日本心理学会理事長に就任(～1996)		言語文化教育研究センター設置 宗教センターをキリスト教文化センターに改称 文学研究科修士課程、博士課程(後期課程)開設	
1994 平成6年			工学部3学科新設 2学科名称変更 工学部、工学研究所、理工学研究所を田辺校 地に統合移転	
1995 平成7年	第6回日本発達心理学会大会(3月28～30日) 大会委員長:濱 治世		総合政策科学研究科修士課程開設	阪神・淡路大震災、 地下鉄サリン事件
1996 平成8年	第9回日本健康心理学会大会(11月2～4日) 大会委員長:松山義則		商学部、経済学研究科に新コース開設 文学研究科美学および芸術学専攻に博士課 程開設	
1997 平成9年			文学研究科2専攻に博士課程(後期課程)を開設 昼夜開講制を実施	北海道拓殖銀行破綻、 山一証券自主廃業
1998 平成10年	私立大学等経常費補助金 (学術フロンティア推進事業)採択(～2008)		文学研究科博士課程(後期課程)開設 工学研究科修士課程開設 セメスター制度実施	長野オリンピック
1999 平成11年			留学生別科設置	
2000 平成12年			工学研究科知識工学専攻に博士課程(後期課 程)開設	
2001 平成13年			文学研究科教育学専攻に博士課程(後期課 程)開設	アメリカ同時多発 テロ(9・11)
2003 平成15年	第12回日本パーソナリティ心理学会 (9月24～25日) 大会委員長:松山義則		文学研究科産業関係学専攻修士課程を開設	個人情報保護法成立
2004 平成16年	第12回日本感情心理学会(5月15～16日) 大会委員長:山内弘継		政策学部政策学科開設 工学部情報システムデザイン学科、環境シ ステム学科開設	
2005 平成17年	文学部心理学科設置認可	感情・ストレス・健康研究センター設置 (～2011) こころの生涯発達研究センター設置 (～2011)	文学部改組社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 宇治学習塾での小学生刺殺事件	愛知万博 JR福知山線脱線事故 衆議院選挙で自民党 大勝、郵政民営化
2006 平成18年	第19回日本健康心理学会(9月8～9日) 大会委員長:橋本 幸		工学部知識工学科をインテリジェント情報 工学科に名称変更	ライブドアショック
2007 平成19年	研究拠点形成費等補助金(通称大学院GP)採択		文化情報学研究科開設	サブプライムローン 問題 就職氷河期再来
2008 平成20年	私立学校施設整備費補助金採択 (環境刺激生体反応モニタリングシステム) (スポーツ健康科学部と共同申請)	赤ちゃん学研究センター設置 (快風館、～現在に至る)	生命医科学部・生命医科学研究科(前期・後 期)設置 スポーツ健康科学部設置 工学部を理工学部に名称変更	
2009 平成21年	心理学部心理学科、心理学研究科に改組 内山伊知郎初代学部長・研究科長に就任 第27回日本生理心理学会(5月16～17日) 大会委員長:鈴木直人 私立大学等研究設備整備費等補助金採択 同志社心理学会発足	香柏館低層棟に研究室一部移転開始 香柏館、知証館1、2階に実験室設置 (～現在に至る)	心理学部・心理学研究科(前期・後期)設置	新型インフルエンザ の感染 裁判員制度開始 衆議院選挙で民主党 大勝
2010 平成22年		心理臨床センター開設(継志館) (～現在に至る)	スポーツ健康科学研究科にスポーツ健康科 学専攻修士課程を設置 グローバル・スタディーズ研究科(前期・後 期)を設置	
2011 平成23年	心理学研究科に心理学コース、臨床心理学コースを設置 鈴木直人学部長・研究科長に就任	実証に基づく心理トリートメント 研究センター(WEST)設置 (～現在に至る) 知証館1、2階実験室(879m)完成 (～現在に至る)	グローバル・コミュニケーション学部設置 社会学研究科の教育学専攻を教育文化学専 攻と名称変更	東日本大震災 福島第一原子力発電 所事故発生
2012 平成24年	財団法人日本臨床心理士資格認定協会第1種指定大学院に認定 同志社大学心理学部ロゴマーク決定	香柏館低層棟に全教員集結 香柏館低層棟実験室(225m)(～現在に至る) 今出川校地の実験室が明徳館地下1階 (172m)に移転	脳科学研究科発達加齢脳専攻一貫性博士課 程設置 生命医科学研究科医工学・医情報学専攻及び 医生命システム専攻博士課程前期及び後期 課程設置 スポーツ健康科学研究科にスポーツ健康科 学専攻博士課程(前期・後期)を設置	領土問題の顕在化
2013 平成25年		香柏館高層・低層棟に研究室移動(予定) 香柏館低層棟の実験室完成(予定)	グローバル・地域文化学部設置(予定)	
2014 平成26年	第78回日本心理学会大会(9月10～12日) 大会委員長:鈴木直人(予定)			

これまでの教育目的の根幹である「こころと行動の基本的性質
と法則性を実験や調査などを通して実証していく」とこと、「こ
ころと行動に関する臨床・応用研究と実践活動に取り組む」とい
う二つの目的を不可欠な両輪として捉え、2009年に世界水準の
新たな学部の実現しました。

わたしの学生生活



大切なこと

桒原 明穂さん [心理学部心理学科2年次生]

同志社大学に入学して、1年と半年が経ちました。これまでと全く違う環境の中でいろいろな経験をし、色々な人との出会いや別れがありました。その中で今一番思うことは、待ってちゃだめだってことです。待ちの姿勢ではなにも始まらないし、何も広がらないからです。

そのことに気付かせてもらったのは、1年次の同志社EVE実行委員会に入った時。普通ならきっと付き合いなかっただろう、という人と出会い、皆で支えあって同志社EVEという大きなことをやり遂げました。大学の文化祭を運営するという、そのこと自体もすごい経験でしたが、わたしが最もEVE実に入ってよかったと思うことは、意識の高い人と出会えたことです。TOEFLのために勉強している人など、様々な活動に取り組んでいる人がいました。

この経験が発端となり、いろいろな人と話してみたいと思いバーでアルバイトを始めたり、もともと興味があった

バイクのカスタムを始めたり、興味があることに片っ端から挑戦しようと思えるようになりました。

大学生活はこれまでと違って、自分の選択次第で環境も付き合う人も状況も変わります。失敗もするししょうもない出会いもたくさんありますが、失敗の経験も次に生きる、そう信じていろいろなことにチャレンジすることが一番大切だと思います。居心地がいいからといってずっと同じ集団に居るのは、わたしはもったいないと思います。外に目を向ければ自分と同じだけの時間を過ごしていても、自分とは全然違う過ごし方をし、色々な経験をしてきた人がいる。それに気づいたとき、自分ももっとがんばらなきゃなと思いました。

またこの環境を整えてくれて、自分がやりたいことを応援してくれる親に感謝して、これからも色々なことに挑戦していきたいと思っています。



友人の礎

吹上 元気さん [心理学部心理学科2年次生]

大学に入学して早いもので1年と半年の歳月が経ちました。

キャンパスに足を踏み入れ最初に驚いたのが、圧倒的な敷地面積の広さと、歴史を感じさせる大学の雰囲気でした。ここで自分の大学生活4年間を過ごすのだと思うと胸が高鳴る一方でした。

最初の頃はキャンパスの広大なゆえに右往左往するばかりで当惑することも多々ありましたが、一番心配していたことはやはり、大学生活を充実させる上で必要不可欠となる友人ができるかどうかでした。しかしそんな心配も杞憂に終わることとなりました。心理学部にはCOPIDというサークルがあります。このサークルは主に心理学に関する実験を行い、より心理学の理解と興味を深めていくことが趣旨のサークルなのですが、新入生が入学する季節にはまた違った活動を行います。心理学部の新入生歓迎会を執り行うことです。

私が入学したときもそうだったのですが、入学式当日の諸先生方によるガイダンスが終わった後に心理学部の先輩が

教壇に立たれ、新歓をやるので是非参加してくださいと告知されました。高校生や中学生の時ですと、こういう催し物には友人と相談して行くかどうかを決めるものですが、友人を作るための新歓です、当然相談する友達は周りにはいません。けれども先生方や先輩が、毎年この新歓で多くの心理学部生が友達をつくり、リトリートセンターで行う合宿で更に交友を深めるのだ、という言葉に後押しされ、不安に駆られながらも参加することにしました。

新歓では一人でも多くの心理学部生と対話できるようにと、様々な配慮がされていました。そのおかげで友人もでき、合宿で更に増え、とても楽しかったことを覚えています。

今では友人にも恵まれ、とても充実した大学生活を送っています。その礎となった新歓を主催されたCOPIDに入ることは、当時の私にとっては当然の成り行きでした。今年の新歓では私自身が新歓責任者となり、新歓を執り行いました。今の1年次生に、新歓のおかげで友人が増えたと言ってももらえたときは、とても嬉しく、万感の思いでした。

在学生PHOTOアルバム ～学生生活の一コマより～





自由を活かして

水嶋 恵理香さん [心理学部心理学科3年次生]

私は2年次の秋学期にハワイ大学に留学させていただきました。これは私が高校生の頃から描いていたキャンパスプランの一つです。高校生の頃は語学を学びたいという理由だけだったのですが、大学で心理学を学べば学ほど、様々な人や環境に触れたいと感じるようになり、より留学に対する意欲が深まりました。

実際ハワイで過ごした日々は私の大学生活の中で最も輝いていた4ヶ月であったといっても過言ではないと思います。学部を超え、大学を超え、国を超えた友人をたくさん作ることができました。本当に様々な考えを持つ方々と出会いお話をさせていただくことが出来、今まで持てなかったようなところまで視野が広がり、自分の考え方も根本的なところから改善できたように思います。

また、ハワイで寂しくなったり困難にぶつかったりしたときにいつも支えてくれたのは、心理学部で出会った友人たちでした。定期的に連絡を取り合い、沢山話を聞いてもら

い、助けられていました。出発するときにアルバムをプレゼントしていただいたり、旅行を企画していただいたりしたことも心に残っています。帰国してからも就職活動の不安から日常の些細な悩みまで、いろんなことを共有したりしています。大学時代にこのような素敵な友人たちと巡り合えたことは私にとって本当に大きな糧となると思います。

大学は良い意味でも悪い意味でも「自由な場」です。その自由を良い方向に活かせるかどうかは自分次第だといつも痛感しております。折角やりたいことにいつでも挑戦出来る環境が与えられているのだからこそ、自分のキャンパスプランを明確にして日々意欲を持って過ごすことが大切だと思っております。これからは就職活動やゼミなども始まり、今まで以上に忙しくなるかと思いますが、人との出会いを大切に、常に目標を掲げ向上心を持ち続け、残された大学生活を有意義なものにしていきたいと思っています。



一つの時代の終わり

佐藤 大地さん [心理学部心理学科3年次生]

函館にいるあいだ、どこへ行っても寂しさがまとわりついてきた。京都から一緒に連れて帰ってきたアルバイトの親友たちを案内しながら、とても楽しい反面、時間が過ぎてゆくにつれて弱いため息が漏れた。

「いつメン (いつものメンバー)」の四人のうち二人は来年大学を卒業して社会人になる。大学生活の大方を共に働いてきたアルバイトを、彼女たちがこの先辞めることもあって、いつメンで最後の旅行だった。

大森浜の石垣に座り、いさり火を遠くに見据えながらたばこの煙を吸い込むと、暗澹とした気持ちになった。これが終わればまた京都に戻り、いつもの安時給で忙しいアルバイトが始まる。秋学期も始まり、どうしたらいいのかも未だに見えてこない就活に捕えられ、そして、いつメンは解散をむかえるのだ。

細く吐き出した煙はいさり火をかすみ、匂いだけそばに置いていなくなる。うつむいたまま潮風にあたる啄木像だけが同情してくれているように見えた。それでも大森浜の波音はよるべない。よるべないので、たばこを根元まで吸ってしまおう。

みんな、どこへ向かうのだろう。浜で花火をしている高校生も、啄木の後ろでこっそりキスをしているカップルも、あのイカ釣り漁船たちも、家族のように愛しいいつメンも。そして自分もこれからどこへ、向かおうとしているのだろう。この夏の終わりになるまで見ないようにしてきたものが、網膜に手を振りだす。

石垣をおりと、車にはみんなが待っていた。中でわいわい、いつものように騒いでいる。それとみとめた瞬間、思わず泣いてしまいうようになった。——いつだってそうだった。帰り道というのはいつも、ひとりだ。行くときは一緒なのに、帰りは必ず、ひとりぼっち。置いてゆくのも、置いてゆかれるものでもないのに。そのことに気付きたくはなくても気付いてしまったとき、部屋のドアの内に入るまで涙するのをこらえなければならなかった。けれど今日はちがう。今日の帰りは、ひとりぼっちじゃないのだ。

旅行も残りわずかになったころ、来年卒業する二人に合わせて、いつメン全員そろってアルバイトを辞めようと決めた。今年の暮れにと。

※心理学部ホームページにも多数の写真を掲載しています。(裏表紙参照)





娘へ願う思い

霜鳥 恵美子

(心理学部心理学科4年次生 霜鳥 咲樹)

二人姉妹の次女で、長女が地元新潟で就職した時、「大学は自分の判断で決めていいよ」の言葉に「新設される心理学部の一期生として京都で学びたい」と言いました。

幼少期より水泳選手の父の影響で、水泳と勉強の両立で自由な時間が少ない生活でしたので、大学では水泳をやめ思う存分、学生生活を満喫してほしいと思っていました。ですから、娘も学業以外にボランティア活動・アルバイト・旅行と自分の行動に責任を持ち、ひとり暮らしを楽しんでいる様子でした。

そして、その様子を見に、京都に足を運び家族四人で四季折々の観光ができた事も楽しみの一つでした。

今、この四年間の集大成である卒業論文作成で、心理学部を選んだ理由のテーマを実験・実証するため奔走している様子です。娘には、心理学で培った知識を活かし、視野の広い人に成長してほしいと思います。

素晴らしい環境で良き先生方に恵まれ、多くの友人に支えてもらった事に感謝して、これからの人生を歩んでいってほしいと願います。

母より



感謝の気持ちを忘れずに

松下 千香子

(心理学部心理学科1年次生 松下 紗英)

娘が大学に入学して7ヶ月が経ちました。高校までの15年間、自然に恵まれた北海道・東北で過ごしてきました。幼い頃はとても人見知りが激しかったので、環境の違う関西での生活に馴染めないのではないかと案じておりましたが、お陰さまで、良き先生や部活の先輩、友人等に恵まれ、毎日楽しく通学しております。

高校に入学してからは、体育科のスキー部において厳しい練習と大会の連続の中で最後まで諦めずに努力することの大切さを学びました。そのお陰で、3年生になり自分の進路を決めてからは、スポーツで培った集中力で頑張り、同志社大学心理学部に合格することができました。

大学に入学してからは、正に「文武両道」の生活を送っております。大阪から、電車で一時間。自然に囲まれた京田辺キャンパスで毎日、ホッとしていることと思います。心理学部での学びは、これから社会に出て行く上で一生の支えになるとと思います。

スキー部では、これまでの集大成としての強い思いで悔いのないように取り組んでほしいです。

これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、自主自律の精神に基づき、視野を広く持ち、何にでもチャレンジしていく4年間であってほしいと思います。

母より



心理学部の教職科目担当者として

心理学部心理学科 神山 貴弥 教授

私の現在の研究領域は、教育心理学や学校心理学と呼ばれる領域です。その中でも、ここ数年取り組んでいる研究テーマが、子どもたちの学校適応に関する予防的・開発的見地からの研究です。子どもたちの学校不適応や問題行動が起こってからではなく、問題の兆候が見られるときにそれらにどのように対処するのか、また問題に到らないように日頃から良好な人間関係づくりをどのように進めるのか、そうした取り組みを支える理論的な枠組みを与えながら、有効な取り組みの開発やその検証を行っています。

こうした研究領域の関係で、また前所属では教員養成に携わっていたことから、私はこの心理学部でも教職に関わる複数の授業を担当しています。ご存知のように心理学部では、中学校教諭1種(社会)、高等学校教諭1種(公民)の教員免許の取得が可能ですし、神戸親和女子大学通信教育学部との提携により小学校教諭1種の教員免許も取得できます。本年度は、心理学部1期生である現在の4年次のうち16名(在籍者の約1割)が、上記いずれか(または複数の)教員免許を取得するために、教育実習に赴きました。

この教育実習の事前・事後指導にあたる『教育

実習の研究』も私が担当しています。受講の学生たちは、それぞれ実習先は異なりますが、教育実習という現場体験を行う運命共同体であり、4年次になってからのゼミを超えての授業でもあることから、和気あいあいとまた一方では模擬授業などに真剣かつ積極的に取り組んでくれています。お互いに学びあおう、高めあおうという姿勢がよくわかり、私自身も楽しく気持ちよくなかかわることができる授業の1つです。実際に教職に就こうとしている人は16名中2名ですが、中には一般企業への就職後に、教職に就きたいと考えている学生もいます。

学校はヒューマン・サービス/ケアの代表的な現場の1つです。教育心理学に限らず心理学部で学んだ様々な知識や技能を、これから学校現場で大いに生かしてもらえればと思っています。ここでは、自分が担当する教職のことに絡めて述べてきましたが、心理学は人が存在するありとあらゆる場面に関わる学問です。どのような職場であれ心理学で学んだもののとらえ方や、知識・技能を生かすことはできます。心理学部生がこうした自分の強みを生かして就職活動を進め、また実際に社会に出て活躍することを願っています。



食行動の心理学的研究

—なぜ日本人は白米を「渴望」するのか—

心理学部心理学科 小松 さくら 特別任用助教

私は、食行動を心理学的に研究しています。食行動を研究しているという、拒食症や過食症などの摂食障害の研究をしていると思われることが多いです。もちろん、摂食障害の治療や予防なども研究内容に含まれていますが、主に研究しているのは健康な人の食行動についてです。食行動の中でも、特にfood cravingに着目しています。cravingとは「渴望」という意味で、food cravingとは特定の食べ物をどうしても食べたいという強い欲求のことです。どんな食べ物がcravingされるのかというと、欧米の研究では、最もcravingされる食べ物はチョコレートです。日本人を対象とした調査でも、チョコレートに対するcravingは頻繁に報告されます。しかしその第1位はチョコレートではなく、「ごはん(白米)」です。このような結果は欧米では見られず、日本人に特有の現象であると言えます。

このようなfood cravingが生じる要因の1つとして、摂食抑制があげられます。例えば、ダイエットをしていてチョコレートを食べるのを我慢していると、チョコレートを食べたくなりますし、長期間海外旅行に行っていて、白いごはんが食べられない日が続くと、白いごはんが食べたくなります。実際に、欧米の研究では、チョコレートを食べること、チョコレートcravingが強く

なり、さらにチョコレートの摂食量も増えることが報告されています。チョコレートは食べ過ぎると肥満につながるため、チョコレートcravingを抑制させる手法の確立を目指して研究が進んでいます。

一方、日本人を対象にした研究では、ごはん(白米のみ)を我慢させることで、ごはんcravingは強くなりますが、ごはんの摂食量は増えません。つまり、現代の日本人はごはんを我慢できないくらい食べたいと思っているにもかかわらず、実際にたくさん食べるわけではないということです。実際に、日本人1人当たりの米の消費量は年々減少しています。ごはんは、チョコレートとは違って、食べたからといって肥満につながるとは考えにくいです。むしろ、ごはんcravingを適切にコントロールし、それを実際のごはんの摂食量に結びつける研究を行うほうが、より意義があると考え、研究を進めています。

大学生になると、下宿生はもちろんのこと、自宅生も、家族と食事をすることが少なくなり、食生活の乱れが問題になってきます。朝食を抜いたり、単なる栄養補給としてお菓子を食べるだけになりしず、しっかりした食事をとって豊かな食生活を送り、大学生活をより充実させたものにしてほしいと思います。

全問正解できるかな？

新島襄検定問題集より抜粋

全 問…立派な同志社人！
4～5 問…もう少しで同志社人！
2～3 問…気持ちは同志社人！
0～1 問…がんばれば同志社人！



Q2

①妙光院 ②便覧舎^{べんらんしゃ} ③龍昌寺

省營銷①

A ①妙光院

Q4

①再来 ②友人 ③奴隸

③三等書記官心得

新島は「政府の奴隷になりたいくない」と断り、田中に「キリストの奴隷」と揶揄されました。

Q6

①M・F・デントン
②A・J・スタークウェザー
③I・タルカット

③渡辺昇

②A・J・スタークウエザーを受けて同塾を「同志社分校紅場」とし、9月の1877年4月、新島は京都府から正式に開校許可

■ 心理学部・心理学部父母会行事

● 2012年度 心理学部 秋学期卒業式・学位授与式

日 時:2013年3月22日(金) 11:00 ~
場 所:京田辺校地 デイヴィス記念館

● 2013年度 新入生父母交流会(入学式)

入学式後、新入生のご父母対象に、学部および父母会活動の紹介を行います。
在学生による学生生活リポートも紹介の予定です。

日 時:2013年4月1日(月) 11:30 ~ 12:30 (予定)
場 所:京田辺キャンパス
(※入学式は、10:00 ~行われます。)



● 2013年度 父母会総会・就職講演会・懇親会

新役員・決算・予算・事業計画などでご審議ご承認いただく年1回の総会です。
就職講演会・懇親会も開催を予定しています。
皆様お誘い合わせのうえご出席お願い申し上げます。
(※詳細は、4月ごろ送付します。)

日 時:2013年5月11日(土) 11:00 ~ 14:00 (予定)
場 所:京田辺キャンパス



■ 学部学年暦

2012年度 秋学期

秋学期	9月21日(金)	秋学期始め・秋学期入学式
	21日(金)	履修科目登録変更
	22日(土)	履修科目登録変更
	24日(月)	講義開始
	10月8日(月)	体育の日(授業日)
	31日(水)	秋学期学費納入最終日
	11月3日(土)	同志社京田辺祭(スポーツフェスティバル)
	4日(日)	
	26日(月)	
	27日(火)	創立記念行事週間(休講)
	28日(水)	
	29日(木)	創立記念日(休日)
	12月24日(月)	天皇誕生日振替休日(授業日)
	25日(火)	キリスト降誕日(休日)・冬期休暇開始
	2013年	
	1月5日(土)	冬期休暇終了
	7日(月)	講義再開
	23日(水)	創立者永眠の日
	26日(土)	講義最終日
	28日(月)	期末試験開始
	2月16日(土)	期末試験終了
	3月上旬	卒業可否発表
	3月20日(水)	
	21日(木)	秋学期卒業式・学位授与式
	22日(金)	
	25日(月)	在学生成績通知書配布
	31日(日)	秋学期終り

2013年度 春学期

春学期	2013年	
	4月1日(月)	春学期始め・春学期入学式
	2日(火)	春学期入学式(国際教育インスティテュート)
	2日(火)	
	3日(水)	
	4日(木)	新入学生履修指導期間 履修科目登録期間
	5日(金)	
	6日(土)	
	7日(日)	
	8日(月)	講義開始
	26日(金)	春学期学費納入最終日
	4月29日(月)	休日
	5月6日(月)	
	7月15日(月)	海の日(授業日)
	29日(月)	講義最終日
	30日(火)	期末試験開始
	8月10日(土)	期末試験終了
	11日(日)	夏期休暇開始
	9月15日(日)	夏期休暇終了
	16日(月)	在学生成績通知書配付
	20日(金)	春学期終り
	28日(土)	春学期卒業式・学位授与式

(名称)

第1条 本会は、同志社大学心理学部父母会と称する。

(目的)

第2条 本会は、同志社大学心理学部(以下「学部」という。))の教育方針に則り、教員と学部在籍する学生の父母又はこれに準ずる者(以下「学生の父母」という。))との連絡を密にし、学生の就学を支援するとともに、学部の教育研究事業を援助し、学部の充実発展に寄与することを目的とする。

(会員)

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 父母会員 学生の父母
- (2) 参与会員 学部所属する専任教職員 若干名
- (3) 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、これに援助を与える者

(事業)

第4条 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学部と学生の父母との連絡を図る行事
- (2) 学生の教育、厚生、就職等に必要なる事業に対する援助
- (3) 学部の教育研究上、必要な施設の拡充及び学術研究に対する援助
- (4) 会報の発行及び配付
- (5) その他本会の目的を達成するために必要と認めた事業

(総会)

第5条 本会に総会を置く。総会は定期総会と臨時総会とする。

- 2 定期総会は毎年1回開催し、臨時総会は役員会の議を経て臨時に開催する。
- 3 総会は全会員をもって構成し、会長が議長となる。
- 4 総会の議事は、出席者の過半数をもって決定する。
- 5 定期総会は、次の事項を決定する。
 - (1) 役員の選出
 - (2) 会則の改正
 - (3) 事業計画、予算及び決算
 - (4) その他重要事項

(役員及び役員会)

第6条 本会は、事業推進と企画立案のため次の役員を置き、その役員をもって役員会を構成する。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 会 計 1名
- (4) 委 員 若干名
- (5) 監 事 1名

第7条 役員は、次の方法によって選任する。

- (1) 父母会員の中から選出する。
- (2) 役員は、役員会の推挙により、定期総会に諮って決定する。

第8条 役員は、次の職務を行う。

- (1) 会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- (3) 会計は、本会の会計を管理する。
- (4) 監事は、本会の会務及び会計を監査する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし、重任を妨げない。

第10条 役員会は、必要に応じ適宜開催し、次の事項を審議し、本会の事業を実施する。

- (1) 役員の推挙
- (2) 会則改正案の作成
- (3) 事業計画案、予算案及び決算案の作成
- (4) その他会務の運営、執行に関する事項

第11条 役員会は、緊急を要する案件は、総会に代り、審議、決定することができる。ただし、役員会で決定した事項は、総会において報告しなければならない。

第12条 役員会は、必要に応じて、この会則の施行に伴う細則、規程を定めることができる。

(運営資金)

第13条 本会の運営は、父母会員費、寄付金及びその他の収入による。

(父母会員費)

第14条 父母会員費は、学期額3,000円とする。ただし、学生が休学する場合は、父母会員費を免除する。

- 2 父母会員費は、毎学期の始めに納入しなければならない。
- 3 父母会員費の徴収は、大学に委託して行う。

(会計年度)

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事務局及び職員)

第16条 本会の事務局を心理学部事務室内に設ける。

- 2 本会は、本会の庶務会計等の業務を処理するため、職員を置く。

附 則

この会則は、2009年7月18日から施行する。

心理学部ホームページを
ご活用ください！
詳しい情報を随時発信
してまいります。



同志社大学心理学部

検索

<http://psych.doshisha.ac.jp/index.html>



●重要なお知らせ

「心理学部父母会」・「在学生の方へフォトアルバム」ページは、ログイン時にパスワードが必要です。各パスワードは父母会報春号にてお知らせしています。
(ご不明な場合は、お問い合わせください。)

ご父母のさまざまなご意見・感想・学生生活Q&Aに取り上げてほしい質問など、下記までご一報ください。

同志社大学 心理学部父母会会報 第7号

2012年12月12日

編集・発行／同志社大学心理学部父母会

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都台1-3

TEL：0774-65-8220 FAX：0774-65-8223

E-mail：snr-fubo@mail.doshisha.ac.jp

印刷／株式会社 石田大成社